

Book Review

評者：服部律子 奈良学園大学保健医療学部看護学科教授

看護教員のための 問題と解説で学ぶ 教育評価力トレーニング

監修：佐藤浩章、編集：大串晃弘、発行：医学書院

定価：2640円（本体2400円＋税10%）



問題を解きながら教育評価力を高めることができる“骨太な”良書

「どのように評価されるかによって学生の学習が変化する」と言われるくらい、評価は大きな力をもっています。しかし、評価に関する悩みは尽きることがない、というのも正直なところ。この本は、そんな教育評価に特化した書籍です。教育評価力を問題と解説で“トレーニング”するというタイトルを見て、「問題を解きながらどのように教育評価力を高めるのだろうか？」と興味を抱きながら本書を手に取りました。

読み始めると、意外や意外、タイトルから抱いたイメージをいい意味で覆す“骨太な”内容でした。教育学と看護学の両分野の著者が執筆されている本書は、しっかりとした教育学の基礎をふまえながら、講義、演習、実習、そして卒業研究までの看護教育の場面ごとに評価の考え方や方法が解説されており、それでいて教育学の教育評価法の書籍のような難解さはなく、看護教育に活用するために教育評価について学びたい教員にはとてもよい本だと思いました。

この本のユニークなところは、基礎的なことを学んだ後に、その知識を使って問題を解くという展開になっている点です。問題は、教育評価を実践するうえで基礎となる知識を「必修」、看護教育の場面に即した内容を「一般」「状況設定」と、まるで看護師国家試験のように区分されています。最初に読んだときはまるで学生になったような気分でしたが、「一般」や「状況

設定」では具体的な場面を挙げて設問されており、実際にイメージしながら評価について理解できるようになっています。

また、それぞれの問題の解説が、単に最初の基礎的な説明の復習だけではなく、実際の看護教育の場面に即して理解を深めることができるよう工夫されていて、タイトルの「問題と解説で学ぶ」というのはこういうことかと納得しました。

問題集のようなユニークなスタイルは好みの分かれるところかもしれませんが、各問題には「評価基準」や「認知バイアス」「主体性の評価」などといった見出しがつけられているので、「ちょっと調べたい」ときに、この見出しを索引のようにして、その部分だけを読むというような使い方もできる本だと思います。さらに、問題がさまざまな出題形式で作成されているので、テストのつくり方の参考にもなります。

「評価の仕方がよくわからない」「評価って難しい」「なんだかうまく評価できていないような気がする」、看護教員の誰もが一度はこのような思いを抱いたことがあるのではないのでしょうか。この本は、そんなときに特にお勧めの1冊です。